

シラバス集

小山歯科衛生士専門学校

歯科衛生士学科 3年

2025年度

シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単 位	単位時間数	時 間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7		⑪	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

⑤開講年度

⑥年次

授業を受ける学年です。

⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑧授業回数

⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習→授業→復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

【授業を受ける前に】

1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

平成31年度入学生から、下記のカリキュラムを適用する。

歯科衛生学科 授業科目一覧

区分	教育内容	授業科目名	指定規則の単位数	授業形態	学 則		1年次				2年次				3年次				
					単位数	時間数	前期		後期		前期		後期		前期		後期		
							単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	生物学	10	講義	1	15	1	15											
		総合基礎		講義	2	30	2	30											
		統計学		講義	1	15											1	15	
		歯科医療接遇		講義	2	30					2	30							
		情報科学		演習	2	30	1	15	1	15									
		コミュニケーション学		演習	2	30	1	15	1	15									
	基礎分野・小計			10		10	150	5	75	2	30	2	30	0	0	0	0	1	15
専門基礎分野	人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能	解剖学	4	講義	1	15	1	15											
		生理学		講義	1	15			1	15									
		生化学		講義	1	15			1	15									
		栄養学		講義	1	15					1	15							
	歯・口腔の構造と機能	組織発生学	5	講義	1	15	1	15											
		口腔解剖学Ⅰ		講義	2	30	2	30											
		口腔解剖学Ⅱ		演習	1	15			1	15									
		口腔生理学		講義	1	15			1	15									
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	6	講義	1	15	1	15											
		口腔病理学		講義	1	15							1	15					
		薬理学		講義	2	30	2	30											
		微生物学		講義	2	30			2	30									
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生行政・福祉論	7	講義	2	30									2	30			
		衛生学総論		講義	1	15	1	15											
口腔衛生学		講義		2	30			2	30										
公衆衛生学		講義		2	30			2	30										
専門基礎分野・小計			22		22	330	8	120	10	150	1	15	0	0	3	45	0	0	
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	2	講義	2	30	2	30											
	臨床歯科学	歯科保存学	8	講義	1	15					1	15							
		歯周療法学		講義	1	15					1	15							
		歯科補綴学		講義	1	15					1	15							
		口腔外科学・麻酔学		講義	1	15					1	15							
		小児歯科学		講義	1	15					1	15							
		歯科放射線学		演習	1	15					1	15							
		歯科矯正学		講義	1	15					1	15							
		障害者・高齢者歯科学		講義	1	15					1	15							
	歯科予防処置論	予防システム論	8	講義	1	15	1	15											
		歯周病予防法Ⅰ		実習	2	60	1	30	1	30									
		歯周病予防法Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60					
		う蝕予防法Ⅰ		講義	1	30	1	30											
		う蝕予防法Ⅱ		実習	1	30					1	30							
	歯科保健指導論	保健指導論Ⅰ	7	実習	4	120	2	60	2	60									
		保健指導論Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60					
	歯科診療補助論	歯科診療補助法Ⅰ	9	実習	2	60	1	30	1	30									
		歯科診療補助法Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60					
		業務管理		講義	1	15							1	15					
		医療安全		演習	2	30									2	30			
	臨地実習(臨床実習を含む。)	実習指導Ⅰ	20	演習	1	30			1	30									
		実習指導Ⅱ		演習	2	45					1	15	1	30					
		実習指導Ⅲ		演習	3	90									2	60	1	30	
臨地・臨床実習Ⅰ		実習		1	45			1	45										
臨地・臨床実習Ⅱ		実習		5	225							5	225						
臨地・臨床実習Ⅲ-I		実習		5	225									5	225				
臨地・臨床実習Ⅲ-II		実習		5	225											5	225		
専門分野・小計				54		58	1755	8	195	6	195	16	345	13	450	9	315	6	255
選択必修分野	医学基礎	7	講義	1	15									1	15				
	知識の統合		講義	3	90									1	30	2	60		
	総合歯科学		講義	3	90											3	90		
	特別活動Ⅰ		演習	2	45	1	15	1	30										
	特別活動Ⅱ		演習	1	15							1	15						
選択必修分野・小計			7		10	255	1	15	1	30	1	15	0	0	2	45	5	150	
合 計			93		100	2490	22	405	19	405	20	405	13	450	14	405	12	420	

※ 講義及び演習科目は15～30時間、実習科目は30時間、臨地実習及び臨床実習は45時間の授業時間をもって1単位とする。

授業科目名	統計学		実務経験講師	○
担当教員名	大野 久美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	3 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	統計の意義、目的を理解する 主な統計手法を学ぶ 統計の活用法を学ぶ			
授業科目の到達目標	統計学を学び、ヒトの健康事象を扱う保険統計を理解する。 保健情報で保健・医療・福祉などの健康に関する情報を判断する能力を養う。 疫学を学び疾病の原因と結果の因果関係を理解する。 政府統計を理解する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1章 保健情報と保健統計 教科書 P.1～17 ・統計学について、保健統計とは何か ・保健統計学の目標、種類、国家統計調査 〈参考書類〉 ・厚生労働省の HP よりプリントアウト ○歯科疾患実態調査の概要、国民生活基礎調査の概況	講義 スライド	プリント配布 ・分類書き込み
2	2章 保健情報と疫学 教科書 P.18～33 ・健康障害の発生要因、方法論	講義 スライド	教科書 保健生態学 完全攻略本 プリント配布 ・疫学研究法分類書き込み ・疫学復習
3	3章 歯科疾患の指数① 教科書 P.36～45 ・う蝕の指数 ・歯周疾患の指数	講義	教科書 歯科保健指導論 完全攻略本 プリント配布 ・歯周疾患の指数分類の書き込み
4	3章 歯科疾患の指数② 教科書 P.45～70 ・口腔清掃状態の指数 ・摂食・嚥下障害のスクリーニングテスト	講義	教科書 歯科保健指導論 完全攻略本 プリント配布 ・口腔清掃状態の分類の書き込み

5	4章 保健情報の分析手順 教科書 P.73～88 ・保健情報の収集(スマホによる情報収集) ・母集団と標本抽出	講義 スライド	完全攻略本 スマホ
6	5章 保健統計の方法 教科書 P.89～136 ・データの尺度 ・t検定 χ^2 検定 について ・図表の種類と特徴	講義	完全攻略本
7	まとめ ・授業の復習 ・定期試験について	講義 スライド	教科書 保健生態学 完全攻略本
8	定期試験 ・30 分間 試験勉強、質疑応答 ・60 分間 定期試験	試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	歯科保健指導 衛生学
この授業科目から発展する主な科目	衛生学、保健指導、公衆衛生学 予防歯科、栄養学
成績評価の方法	定期テスト 90%、授業態度 10%
その他 受講生への要望等	欠課、遅刻、忘れ物のないよう受講して下さい。 国家試験問題も併せて学んでいただきます。

授業科目名	口腔病理学		実務経験講師	○
担当教員名	水島 洋		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	3 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	口腔病理学は口腔内に現れる異常を学びます。 歯科衛生士として口腔内を観察し正常なのか異常があるのか、異常があるならそれが何かを理解することで治療へと繋がります。			
授業科目の到達目標	1 口腔の正常な状態を説明できる 2 口腔の異常を識別できる 3 全身疾患と関連した関連した異常を説明できる 4 先天異常を識別できる 5 異常の原因を説明できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	口腔病理の概要について 1 章 歯の発育異常	1 講義	
2	2 章 歯の損傷と着色・付着物 3 章 う蝕	講義	
3	4 章 象牙質・歯髄複合体の病態 5 章 歯周組織の病態	講義	
4	6 章 口腔粘膜の病変 7 章 口腔領域の嚢胞と腫瘍	7 講義	
5	8 章 口腔癌 9 章 顎骨の病変 10 章 唾液腺の病変	講義	
6	11 章 口腔領域の奇形 12 章 口腔組織の加齢変化	講義	
7	口腔病理総復習、まとめ	講義	
8	定期試験	定期テスト	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	なし
この授業科目の前提となる主な科目	病理学

この授業科目から発展する主な科目	口腔外科学
成績評価の方法	定期テスト
その他 受講生への要望等	

授業科目名	衛生行政・福祉論		実務経験講師	○
担当教員名	金澤 愛		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025年度	学 期	前期	
年 次	3年次	授業回数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	福祉について考え、社会生活を営んでいく上での社会規範を知り、歯科衛生士に関する法規を学びその知識を身につける。			
授業科目の到達目標	1、衛生行政の概要(目的・組織 他)を理解し「衛生法規の分類」が記述できる。 2、歯科関係三法の概要(細則・免許・試験・業務)を記憶し歯科衛生士の業務について説明ができる。 3、社会保険と社会福祉の体系を理解し記憶する。 4、歯科衛生士国家試験に向けた試験対策知識を理解し身につける。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	わが国の医療制度	講義・演習	
2	歯科衛生士法	講義	小テスト
3	歯科医師法・歯科技工士法	講義	小テスト
4	他の医療職種	講義	小テスト
5	関係法規	講義	小テスト
6	医療動向	講義	小テスト
7	社会保障について 社会保障の定義と内容	講義	小テスト
8	社会保障行政機構の概要	講義	小テスト
9	社会福祉について 社会福祉行政	講義	小テスト
10	地域包括支援システム	講義	小テスト
11	介護保険制度	講義	小テスト
12	税金の仕組み・年金制度について	講義	小テスト
13	障害者の福祉制度	講義	小テスト
14	精神保健・災害時の精神保健	講義	小テスト
15	定期試験	講義	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生士と法律・制度
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	公衆衛生学・保健指導論
この授業科目から発展する主な科目	公衆衛生学
成績評価の方法	定期試験・授業態度
その他 受講生への要望等	法律や制度は大変難しいので、良く予習復習して少しずつ理解していきましょう。

授業科目名	医療安全		実務経験講師	○
担当教員名	金澤 愛		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025年度	学 期	前期	
年 次	3年次	授業回数	15回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	1. 医療安全と感染予防について理解し実践できる。 2. 成人・小児等の一次救命救急に対する理解ができる。 3. 誤嚥・アナフィラキシーショック・低血糖発作・止血などの一般的な救急対応と処置について理解ができる。 4. 主要疾患とその対応について理解できる。 5. 臨床検査データとその意味について理解できる。			
授業科目の到達目標	臨床検査の方法と疾患に関する数値のデータを覚える。 チーム医療に携わる一員として確実に理解する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	医療安全と感染予防	講義	
2	感染予防対策 滅菌・消毒 医療廃棄物の取扱い	講義	小テスト
3	臨床検査とは	講義	小テスト
4	生理機能検査 バイタルサインの測定	講義 実習	実習記録
5	血液学的検査	講義	小テスト
6	感染症の検査	講義	小テスト
7	肝機能・腎機能検査	講義	小テスト
8	糖尿病の検査	講義	小テスト
9	代謝・内分泌疾患、病理学的検査	講義	小テスト
10	免疫・血清学的検査	講義	小テスト
11	画像検査	講義	小テスト
12	口腔領域の臨床検査	実習	小テスト
13	救急救命講習①	講義 実習	
14	救急救命講習② AED の取扱い	実習	
15	定期試験	定期テスト	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 臨床検査
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学、生理学、生化学

この授業科目から発展する主な科目	歯科診療補助論
成績評価の方法	定期試験(80点) 出席・実技・忘れ物・態度状況(20点)
その他 受講生への要望等	医療人として必要な知識と技術の習得が目標です。国家試験でも臨床歯科医学として検査の数値や疾患との兼ね合いが出ます。これからのチーム医療で必要となる知識です。チーム医療に携わる一員として確実に理解しましょう。

授業科目名	実習指導Ⅲ		実務経験講師	○
担当教員名	青木 美日		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025年度	学 期	通年	
年 次	3年次	授業回数	45回	
単 位 数	3単位	単位時間数	90時間	
授業科目の概要	歯科衛生士として様々な活躍の現場を知り、それぞれのどのような知識や技術が必要かを考え、習得していく科目です。			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学齢期の歯科検診の実践ができる 2. 乳幼児に対する口腔保健指導ができる 3. 高齢者の特徴がわかる 4. 認知症や全身疾患を理解し、安全を考慮した対応ができる 5. 高齢者に対する口腔保健指導ができる 6. 大学病院の口腔外科での診療内容を把握する 7. 衛生・不衛生の概念をしっかりと把握する 8. 小外科手術のアシストができる 9. 保健指導や予防処置を実践できる 			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	臨床実習Ⅲについて 実習の手引き 3年次実習目標 到達目標 身だしなみ 学校歯科検診について 【キーワード】感染予防 症例に応じた器具・器材	講義	課題 手引きの確認
2	歯科医院実習指導(Ⅲ-1) 日誌の記入の方法 診療記録の読み方 【キーワード】業務管理 術式	講義	
3	歯科医院実習指導 <相互実習>① 口腔内観察、バキューム操作、超音波スケーラー	実習	
4	歯科医院実習指導 <相互実習>② PMTC、プロービング	実習	
5	学校歯科検診指導① ・要項 ・検診の流れ確認 ・学齢期について・歯式の確認・記入練習	講義 演習	学校保健について
6	矯正歯科実習指導① ・要項・日誌の書き方 ・機器、材料の名称と用途・術式	講義 演習	
7	訪問歯科実習指導② ・要項・日誌の書き方 ・注意事項・術式・患者指導	講義	

8	保育園実習について① ・要項・レクレーション指導案決定・媒体づくりの材料決定 ・年齢別成長過程	講義	
9	保育園実習について② ・媒体作りとレクレーション発表	講義	
10	2歳児歯科健康診査実習指導① ・事前調べ学習 【キーワード】リガフェーデ病 リーウェイスペース	講義	
11	2歳児歯科健診審査実習指導② ・要項・健診の流れ確認	講義	
12	高齢者施設実習指導① ・概要 ・事前学習 ・日程・単位・評価について 【キーワード】老人保健 関連職種	講義	
13	高齢者施設実習指導② ・実習の展開・実習日誌 【キーワード】介護保険制度 施設事業内容	講義	
14	高齢者施設実習指導③ ・実習施設の概要 ・高齢者とのコミュニケーションの回り方 ・認知症について	講義	
15	高齢者施設実習指導④ ・間接訓練、口腔体操、口腔ケア、義歯の取り扱い 実習 【キーワード】あいうべ体操、間接訓練、保湿	講義	ト
16	高齢者施設実習指導⑤ 認知症高齢者の対応 間接訓練、口腔体操、口腔ケア、義歯の取り扱い 実習 【キーワード】あいうべ体操、間接訓練、保湿	実習	
17	高齢者施設実習指導⑥ ・オリエンテーション、口腔ケア、レクレーション計画	講義	
18	高齢者施設実習指導⑦ ・媒体作り、レクレーション発表練習	講義 演習	
19	高齢者施設実習指導⑧ ・レクレーションクラス発表	演習	
20	高齢者施設実習指導⑨ ・レクレーションクラス発表 ・要項・オリエンテーションの内容確認	講義	
21	歯科医院実習指導(Ⅲ-1) ・振り返り	演習	
22	大学病院実習指導① ・概要・事前学習・母子手帳の確認	講義	実習所の場所、交通手段の確認

	<ul style="list-style-type: none"> ・日程・単位・評価について 【キーワード】 病院歯科の役割 受診の流れ		
23	大学病院実習指導② <ul style="list-style-type: none"> ・口腔外科領域 【キーワード】 病院歯科の役割 受診の流れ	講義	
24	大学病院実習指導③ <ul style="list-style-type: none"> ・悪性腫瘍・良性腫瘍について ・口唇・口蓋裂について ・病院内の集中治療室について ・清潔域・不潔域 オペ室について ・嚥下機能について(VE・VF) 	講義	
25	大学病院実習指導④ <ul style="list-style-type: none"> ・悪性腫瘍・良性腫瘍について ・口唇・口蓋裂について ・病院内の集中治療室について ・清潔域・不潔域 オペ室について ・嚥下機能について(VE・VF)確認テスト 	講義	
26	大学病院実習指導⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・事前講義 	講義	
27	大学病院実習指導⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・事前講義 	講義	
28	大学病院実習指導⑦ <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い 外科用グローブ等の取り扱い 縫合・麻酔準備 	講義	
29	大学病院実習指導⑧ <ul style="list-style-type: none"> ・全身疾患についてレポート(1人1疾患について) PPで発表について 	講義	課題 全身疾患のレポート
30	大学病院実習指導⑨ <ul style="list-style-type: none"> ・麻酔(局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔) 	講義	
31	大学病院実習事前学習⑩ <ul style="list-style-type: none"> ・外科器具の種類と名称・取り扱い 	講義 演習	確認テスト
32	大学病院実習事前学習⑪ <ul style="list-style-type: none"> ・難抜歯について 器具の準備 術式 	講義	確認テスト
33	大学病院実習事前学習⑫ <ul style="list-style-type: none"> ・難抜歯について 器具の準備 術式 オスキー試験 	講義	
34	大学病院実習事前学習⑬ <ul style="list-style-type: none"> ・課題発表 	講義 演習	冊子 PPでの発表
35	大学病院実習事前学習⑭ <ul style="list-style-type: none"> ・課題発表 	講義 演習	PPでの発表
36	摂食嚥下講座 伊藤先生	講義	

37	摂食嚥下講座 伊藤先生	講義	
38	大学病院実習実習指導⑮ ・周術期口腔機能管理	講義	
39	大学病院実習指導⑯ ・日誌の書き方、要項確認	講義	
40	3年間の実習を振り返って 大学病院実習の発表に向けて資料作り①	講義	
41	大学病院実習の発表に向けて資料作り②	講義	
42	大学病院実習の発表に向けて資料作り③	講義	
43	発表会① 自治医科大学附属病院 口腔外科にて実習	講義	
44	発表会② 獨協医科大学病院 口腔外科にて実習	講義	
45	臨地・臨床実習Ⅲ-Ⅱ 振り返り 総まとめ	講義	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「小児歯科」「高齢者歯科」
参考書・資料 等	ポケットマニュアル
この授業科目の前提となる主な科目	全て
この授業科目から発展する主な科目	歯科診療補助・歯科保健指導・歯科予防処置
成績評価の方法	出席状況(70点)、小児の発達レポート(10点)、大学病院実習事前課題(10点) 実習の振り返り(10点)
その他 受講生への要望等	課題は提出期限を守ってください 体調を整えて、欠席をしないようにしましょう。

授業科目名	臨地・臨床実習Ⅲ		実務経験講師	○
担当教員名	青木 美日		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	通年	
年 次	3 年次	授業回数		
単 位 数	10 単位	単位時間数	450 時間	
授業科目の概要	学内で学んだ知識・技術・態度をもとに、歯科医療現場で実践実習を行います。 様々な歯科医療現場での歯科衛生士の役割を認識し、責務を自覚した行動がとれる能力を養うための実習です。			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士の公衆衛生活動を知る 2. 乳幼児への歯科衛生指導の内容がわかる 3. 高齢者施設での歯科衛生活動の内容がわかる 4. 歯科診療所で歯科予防処置ができる 5. 歯科診療所で歯科保健指導ができる 6. 大学病院と一般歯科診療所の違いがわかる 7. 要介護者、全身疾患患者への対応ができる 8. 多職種連携の中での歯科衛生士の役割がわかる 			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
	歯科医院実習(臨床実習Ⅲ－Ⅰ)	184 時間	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
	2 歳児歯科健診 (臨地実習)	1 日(7 時間実習)	臨地・臨床実習日誌 実習課題、振り返り
	高齢者施設実習(臨地実習)	7 時間×5 日(35 時間)	臨地・臨床実習日誌 実習課題、振り返り
	歯科医院実習(臨床実習Ⅲ－Ⅱ)	133 時間	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
	大学病院実習(臨地実習)	70 時間 7 時間実習×10 日	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
	保育園実習(臨地実習)	1 日(7 時間実習)	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
	城東小学校歯科健診	1 日(7 時間実習)	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
	大谷中学校歯科健診	1 日(7 時間実習)	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り

使用テキスト	新人歯科衛生士・デンタルスタッフ ポケットマニュアル 医歯薬出版株式会社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	臨地・臨床実習Ⅰ、臨地・臨床実習Ⅱ、実習指導Ⅲ
成績評価の方法	出席状況(5 割)、実習先担当者の評価・実習評価(5 割)

その他 受講生への要望等	校外実習のため、指導者の指示に従い実習を行うことになります。 学生としての謙虚さと、歯科衛生士としての現場に出るという意識をもって臨んでください。
-----------------	--

授業科目名	医学基礎	実務経験講師	○
担当教員名	山口 佳志	実務経験	医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期
年 次	3 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	1 個人の医学に対する知識を身につける。 2 国家試験の基礎学力を学ぶ。		
授業科目の到達目標	1 個人の医学知識を身につけ理解する。 2 基礎力から応用力を学び、生かす。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション	講義	
2	脳神経、消化器、肝、胆、膵	講義	
3	心臓、循環器、内分泌、腎泌尿器	講義	
4	免疫アレルギー、膠原病、感染症	講義	
5	血液、呼吸器、小児科、救急、皮膚科	講義	
6	婦人科、眼科、耳鼻科、整形外科、精神科	講義	
7	基礎問題 I・II・III	講義	
8	定期試験	定期テスト	

使用テキスト	ビジュアルノート
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学
この授業科目から発展する主な科目	生理学、生化学、病理学
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	知識の統合		実務経験講師	○
担当教員名	青木美日		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	通年	
年 次	3 年次	授業回数	45 回	
単 位 数	3 単位	単位時間数	90 時間	
授業科目の概要	これまでの学習した知識を統合し、臨床で応用できる能力を養う			
授業科目の到達目標	これまでの学習した知識を統合し、臨床で応用できる能力を養い知識の理解を深める			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	・歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、タフトブラシ・口腔清掃法・ブラッシング法	講義	
2	・スポンジブラシ・舌ブラシ・義歯用ブラシ・トゥーネーピック・ラバーチップ・口腔洗浄器	講義	
3	・歯磨剤、洗口剤の成分	講義	
4	・ブラッシングの有害作用・口臭の分類	講義	
5	・口臭の検査、予防・禁煙治療	講義	
6	・行動変容ステージ・歯科衛生過程を進めるうえで重要な考え方	講義	
7	・行動変容に関連する理論、理論の実践・虐待・医療面接	講義	
8	・歯科衛生過程	講義	
9	・国民健康栄養調査・メタボ基準・肥満と痩せの判定・低栄養の指標	講義	
10	・糖質・脂質・タンパク質(アミノ酸)・ビタミン	講義	
11	・ミネラル・食品の分類・消化酵素の種類	講義	
12	・食事摂取基準・特別な配慮を要する対象・ライフステージ別歯科保健指導	講義	
13	・NCDs・PDCA サイクル・地域保健活動の評価・乳児の発育・DMFdef	講義	
14	・保健指導まとめテスト	講義	
15	・歯科予防処置(歯周治療)の重要ポイント	講義	
16	・歯周治療における歯科衛生士の役割・歯周治療の進め方・歯周病の検査	講義	
17	・歯周病検査、画像からの読み取り	講義	
18	・歯周基本治療・リスクファクター・全身疾患・歯周疾患の特徴(疾患別の特徴)	講義	
19	・歯周基本治療・薬物療法・スケーリング、ルートプレーニング・シャープニング	講義	
20	・機械的スケーラー・歯面清掃機・PMTc・PTC	講義	
21	・歯周基本治療(う蝕処置～薬物療法)	講義	

22	・歯周外科・根分岐部病変の治療・歯周歯内の治療	講義	
23	・口腔機能回復治療の歯科衛生士の役割・インプラント治療	講義	
24	・メンテナンス・SPT	講義	
25	・う蝕・フッ化物の応用、歯磨剤	講義	
26	・フッ化物の毒性計算問題	講義	
27	・指数	講義	
28	・小窩裂溝填塞・う蝕活動性試験・う蝕、歯周病の予防レベル	講義	
29	・歯科予防処置まとめテスト	講義	
30	・歯科診療補助の概念、医療安全(AED)・感染予防・滅菌と消毒	講義	
31	・廃棄物の取り扱い・患者誘導・ポジショニング、ライティング、フォーハンド、受け渡し・バキューム	講義	
32	・直接修復・隔壁・歯冠分離・ラバーダム防湿	講義	
33	・間接修復・歯肉圧排	講義	
34	・漂白法・歯髄疾患・根尖性歯周疾患、歯髄保存療法	講義	
35	・切断法・抜髄・根管充填	講義	
36	・義歯の名称・義歯の検査・義歯の手順	講義	
37	・部分床義歯の名称・インプラント	講義	
38	・臨床検査・画像検査・薬品、材料の管理	講義	
39	・歯科材料の基礎知識・印象材	講義	
40	・石膏・セメント類	講義	
41	・セラミック・ワックス・仮封	講義	
42	・口腔外科の術式と器具器材、麻酔、全身疾患	講義	
43	・放射線(口内法・位置づけ・デジタルフィルム)・矯正歯科(装置・機器と材料、ブラケット手順・MTF)	講義	
44	・小児歯科(行動療法、乳歯冠・クラウンフォーム・根治・根管充填の手順)	講義	
45	筆記試験	試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「保健生態学」「歯科診療補助論」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	歯科診療補助論、歯科保健指導論、歯科予防処置論、高齢者歯科学、口腔衛生学、公衆衛生学
この授業科目から発展する主な科目	臨床実習Ⅲ-Ⅱ
成績評価の方法	出席、授業態度、実技試験、筆記試験で総合的に判断
その他	施設実習や臨床実習に向けて応用できるように能力を養いますので重要な科目となります。

受講生への要望等

欠席の無いようにしてください。

授業科目名	総合歯科学		実務経験講師	○
担当教員名	鳩山 恭子		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025年度	学 期	後期	
年 次	3 年次	授業回数	45 回	
単 位 数	3 単位	単位時間数	90 時間	
授業科目の概要	臨床に沿った治療の流れやそのベースとなる知識の定着を図る 国家試験に向けての知識の定着を図る			
授業科目の到達目標	う蝕の治療法(保存療法学・修復学)の理解する 歯周病の分類～歯周外科まで 歯周療法の理解する 口腔外科学を理解する 小児歯科学を理解する 歯科矯正学を理解する 歯科補綴学を理解する 高齢者歯科学・障害者歯科学			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	非う蝕性硬組織疾患 う蝕について	講義	
2	窩洞の分類 治療法 術式 検査器具について	講義	小テスト
3	直接修復法 術式 使用器具について	講義	小テスト
4	間接修復法 術式 使用器具について	講義	小テスト
5	保存修復のまとめ・復習	講義	小テスト
6	歯髄炎 治療術式 使用器具について	講義	小テスト
7	覆髄法 術式 使用器具について	講義	小テスト
8	根管治療 術式 使用器具について	講義	小テスト
9	覆髄法 術式 使用器具について	講義	小テスト
10	根管治療 術式 使用器具について	講義	小テスト
11	根尖性歯周炎 外科治療歯周療法のまとめ・復習	講義	小テスト
12	歯肉炎と歯周炎について	講義	小テスト
13	歯周病の流れ、歯周病のリスクファクター	講義	小テスト
14	歯周外科治療 術式 使用器具について SPT とメインテナンス	講義	小テスト
15	印象域、咬合様式、仮想平面	講義	小テスト
16	欠損補綴装置 ブリッジ	講義	小テスト
17	欠損補綴装置 義歯	講義	小テスト
18	CAD/CAM	講義	小テスト
19	インプラント	講義	小テスト
20	清潔域、不潔域、スタンダードプリコーション	講義	小テスト

21	難抜歯 術式 使用器具について	講義	小テスト
22	顎骨骨折、顎関節脱臼、顎関節症について	講義	小テスト
23	唇顎口蓋裂について	講義	小テスト
24	顔面神経麻痺、三叉神経痛	講義	小テスト
25	腫瘍・嚢胞・唾液腺疾患	講義	小テスト
26	小児の心身の発達	講義	小テスト
27	小児の口腔の発達(ヘルマン、空隙)	講義	小テスト
28	歯の形成異常、補綴装置	講義	小テスト
29	乳歯の歯内療法、補綴	講義	小テスト
30	歯の位置異常、矯正力	講義	小テスト
31	顎骨の成長	講義	小テスト
32	マルチブラケット装置について 可撤式矯正装置について		小テスト
33	臨床検査について 検査方法・正常値	講義	小テスト
34	放射線学 口内法撮影 パノラマエックス線	講義	小テスト
35	加齢による身体的・精神的変化と疾患	講義	小テスト
36	高齢者の状態の把握	講義	小テスト
37	高齢者の口腔健康管理	講義	小テスト
38	摂食嚥下リハビリテーション	講義	小テスト
39	高齢者に関わる医療と介護	講義	小テスト
40	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	講義	小テスト
41	障害者の歯科医療	講義	小テスト
42	摂食機能訓練	講義	小テスト
43	臨床歯科まとめ①	講義	小テスト
44	臨床歯科まとめ②	講義	小テスト
45	定期試験	試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学、臨床検査、保存修復・歯内療法、保存修復学、口腔外科学・歯科麻酔、歯科矯正学、小児歯科学、歯科放射線学
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	歯周病学、歯科保存療法学、歯科修復学、歯科矯正学、歯科補綴学、歯科口腔外科学、小児歯科学、高齢者・障害者歯科学
この授業科目から発展する主な科目	国家試験対策
成績評価の方法	筆記試験
その他 受講生への要望等	国家試験の対策の授業となります。総まとめを行うので 1 つ 1 つの授業が重要になってきます。欠席の無いようにしてください。